

基調講演「アジアの世紀」 二階 俊博(衆議院議員)

1939年2月17日生 中央大学法学部卒業 所属政党 自由民主党 衆議院議員11期目

運輸大臣・北海道開発庁長官(小淵内閣、森内閣)、経済産業大臣(小泉内閣、福田内閣、麻生内閣)、自民党総務会長、衆議院予算委員長を歴任。現在、自民党総務会長(3度目)、自民党国土強靱化総合調査会長、(一社)全国旅行業協会会長

「第2回アジアコスモポリタン賞」授賞式典が大変盛大に開催されましたこと、アジアコスモポリタン賞大賞をはじめとする受賞者の方々に、心からお喜びを申し上げます。

今回、大賞を受賞されたシン前インド首相とは深い友好関係があり、ERIA設立直後に10年間で100万ドルの拠出を約束し、今も実行してくださっていることに感謝を申し上げます。

インドから奈良に伝わってきた代表的な文化として、仏教が大きな位置を占めています。鑑真が、国際都市奈良の発展に向けて、生死を懸けてご努力を頂いたこと、その奈良において荒井知事のリーダーシップのもとに、今日このような立派なフォーラムが開催されていることに感銘深いものを覚えます。

2010年に、奈良の東大寺の鑑真像が中国に里帰りしたように、技術の発達で、貴重な文化遺産が国境を越えて移動することが容易になっています。しかし、人と人、文化と文化が触れ合う裏には、両国関係者の人生を懸けた血のにじむような努力があります。本日表彰された皆さまは、まさに人生を懸けてアジア相互の理解のために努力した方々ばかりであり、あらためて敬意を表します。

2006年、私はグリアOECD事務総長とERIAの設立構想を相談しました。グリア事務総長は日本に大変協力的な方で、東日本大震災に際しても、福島県産のものを食べ、福島を訪問されました。グリア事務総長が今なお元気で活躍されていることは、これ以上に福島風評被害に立ち向かう証になるものではありません。われわれは一つ一つのことをこうして証明しながら、少しでも理解を深めていただく努力をしなければなりません。

ERIA設立の際には、当時の小泉首相から、100億円の拠出を了承していただきました。この拠出で、日本の役割がその何倍も国際社会から

評価されたことは明らかです。ERIAは6,800ほどある国際研究機関の中で、30位ほどにランキングされる堂々たる国際機関になっています。

ASEAN10カ国、日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドの16カ国でスタートしたERIAの活躍が顕著であったため、モンゴルがERIAへ加入したいとアプローチしてきました。新加入の会員が手を挙げるということは会が成功している証拠であり、喜ばしいことです。

日本は、ASEANおよび東アジア統合のグランドデザインを設計するERIAの最大のスポンサーです。ASEAN各国と協力して、地域の人々に安全・安心を提供し、より公平な発展戦略を描き、環境やエネルギー問題に対して持続的な発展を確保するために、知見を提供する努力を怠ってはなりません。日本のソフトパワーを戦略的に活用し、東アジア各国とwin-winの関係を構築することが必要であり、我が国が東アジアにおいて、21世紀を通じて重要な国であり続けるためのツールがERIAであることを確信しています。

今年5月、グリアOECD事務総長と西村ERIA事務総長が、共同政策研究を実施するためのMOUを締結しました。これにより、ERIAは東アジア版OECDとしてのステータスを確立できました。これも皆さまのご指導、ご協力のたまものであると考えています。

「アジアコスモポリタン賞」は、より多くの国と国、人と人を結びつけるというERIAの提供する価値を同様に追及していただいている方々を表彰するものです。ERIAと奈良県が協力して実施している「アジアコスモポリタン賞」をきっかけに、さらに大きな発展に向けてみんなで協力し合い、また、ERIAを支援する議員連盟の会長としても、経済界やスポーツ界、文化界の方々も交えて、オリンピックも視野に入れながら海外との交流をしっかりと行っていきたいと考えています。

